



ソル倶楽部編／ソル・ギター作品全集

作品番号なし バレエ《シンデレラ》の行進曲

WoO Marche du ballet de Cendrillon

1823年に出版されたメッソニエ版を底本とした。

バレエ《サンドリヨン（シンデレラ）》はソルのもっとも成功したバレエ曲。全3幕よりなり、序曲と24曲で構成されている。初演はロンドンで1822年3月26日に王立劇場で行なわれ、続いてパリが1823年3月3日オペラ座、モスクワが1824年1月31日に初演されている。パリの最終上演は1830年11月24日であり、上演回数は111回を数え、当時としては記録的なロングランを記録している。

この《行進曲》は第3幕の3曲目である。ロンドン初演の直後（1822年12月2日出版登録）にソル自身の編曲による全曲のピアノ編曲が出版されている。おそらく、このギター編曲も同じ時期に作られたものと考えられる。

原曲と比較すると、冒頭の主和音の吹き流し、終結部分のギター向きではない弦楽器による低音のパッセージの2ヶ所の省略が見られるだけである。

バレエ《シンデレラ》の成功は残念ながらソルによる音楽が理由で評判を取ったわけではない。まずはシンデレラ役が人気プリマドンナが踊ったこと。ロンドンではメルカンドッティであり、パリではビゴッティニーニ、レガロワ、ノブレが踊っているのである。そして台本、衣装デザインが振り付け師でもあり王子役で踊ったアルベールも有名であり、舞台美術のキセリも定評の人物だった。そして、舞台もかなり豪華な作りだったようだ。ピアノ編曲楽譜の表紙にはシンデレラを乗せた馬車が描かれているが、それはカボチャの馬車などではなく、女性4名を従え、6,7人の小人が列をなしているもの。一番の驚きは、馬車を牽いているのが馬ではなくユニコーンであること。シャルル・ペローの原作には基づいているものの、「オペラ・ファンタスティック」という副題が示すように、幻想的な豪華絢爛スペクタクル・オペラだったようだ。バレエ歴史かI. ゲストはソルの音楽をニコラ・イズアール、ロッシニーの《シンデレラ》の音楽と比較して次のように言っている。「ソルの音楽は両者の音楽に比べて、別段優れたものでも、独創的なものでもないが、スペクタクルものの音楽としては十分であった」。ロマンティック・バレエ初期においては、音楽よりも振付、演出が重要だったのである。

菅原 潤

※ 2009年9月29日公開

※ 2009年10月23日、解説を追記、修正。

Marche

du Ballet de Cendllion

Edited by Jun Sugawara

Fernando Sor, WoO

Marche

© = D *p*

5 *f*

9

13

17 *dolce*

21

25

© Copyright 2009 by HOMA dream Inc. Tokyo
International Copyright Secured.
All Rights Reserved. Printed in Japan.

